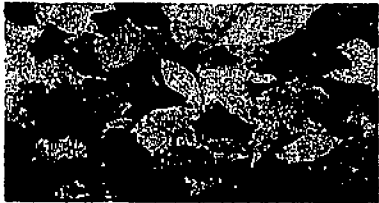


平成20年度
横須賀市教育委員会生涯学習課
人権セミナー



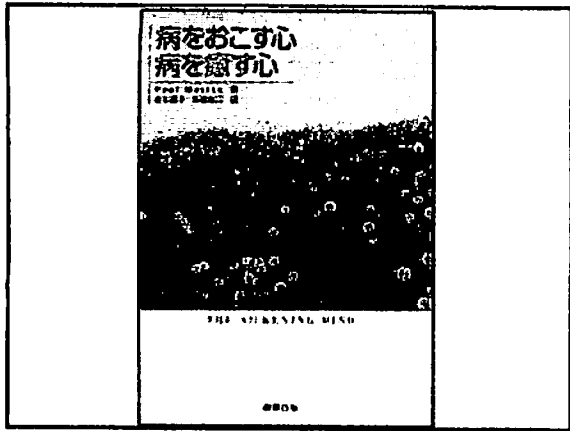
パーソナリティー(人格)障害を
理解する

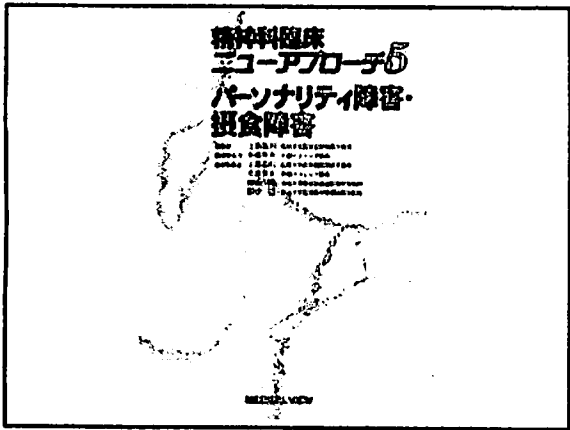
医療法人社団碧木会 長谷川病院
院長 宮永 陽子

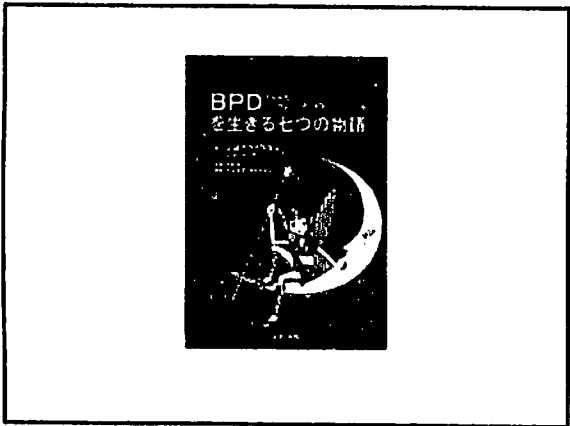
エイズの絵本

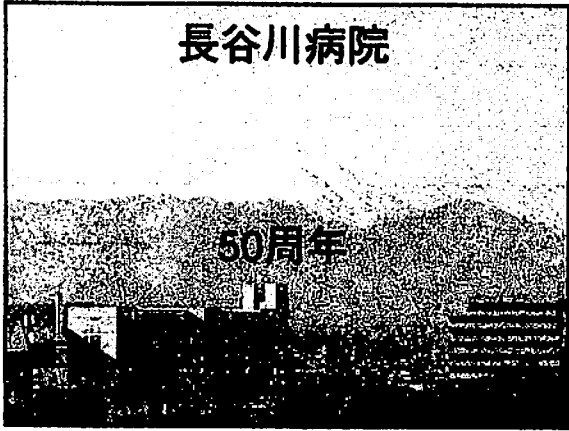
監修 北沢信子 監訳 志保由紀子 ☆
訳 夜目由紀 長谷川陽子







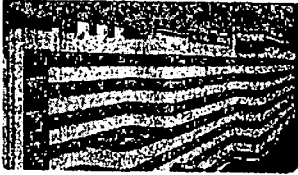


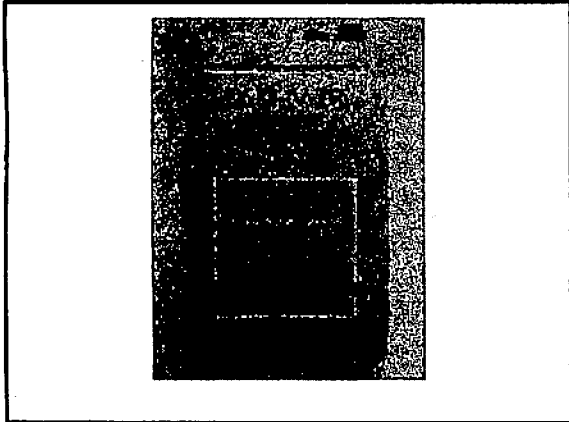




病床数

- 精神科 531床
- 内科 31床
- 合計 562床





人格(パーソナリティー)障害 ①

• 全般的診断基準

A. その人の属する文化から期待されるものより著しく偏った、内的体験および行動の持続的様式。2つまたは、それ以上の領域

- 1) 認知
- 2) 感情性
- 3) 対人関係機能
- 4) 衝動の制御

人格(パーソナリティー)障害 ②

B. その持続的様式は柔軟性がなく、個人的および社会的状況の幅広い範囲に広がっている。

C. その持続的様式が、臨床的に著しい苦痛、または社会的、職業的または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている。

D. その様式は安定し、長期間続いており、その始まりは少なくとも青年期または成人期早期にまでさかのぼることができる。

人格(パーソナリティー)障害 ③

- E. その持続的様式は、他の精神疾患の衰れ、またはその結果ではうまく説明されない。
- F. その持続的様式は、物質(例:乱用薬物、投薬)または一般身体疾患(例:頭部外傷)の直接的な生理学的作用によるものではない。

パーソナリティー障害

- A群 妄想性パーソナリティー障害
シゾイドパーソナリティー障害
失調型パーソナリティー障害
- B群 反社会性パーソナリティー障害
境界性パーソナリティー障害
演技性パーソナリティー障害
自己愛性パーソナリティー障害
- C群 回避性パーソナリティー障害
依存性パーソナリティー障害
強迫性パーソナリティー障害
- 特定不能のパーソナリティー障害

B P D

- **B**orderline **P**ersonality **D**isorder
- 境界性パーソナリティー(人格)障害
- ぼーだー

情緒不安定性人格障害



診断をめぐって I

・古典的分類

- 外因性(身体因) : 脳腫瘍, 甲状腺疾患...
- 内因性 精神病 : 統合失調症, 躁うつ病
- 心因性 : 心因反応(急性),
神経症 (慢性)

診断をめぐって II

- ・ 症状・状態を病名のかわりにする ○○症
- ・ 自分をコントロールできているかどうかという水準による 神経症水準 精神病水準

例) 摂食障害: やせ願望・食べ吐きという症状があるがなんとか外来治療が可能であれば、神経症水準・著しい体重の減少があり、貧血・肝障害等で生命の危機におちいる可能性が高く、家族に対する支配や暴力で自宅療養は困難で入院を必要としているが、それを説明しても当事者自身がそれを理解できない場合は、精神病水準。

診断をめぐって III-1

- DSM-IV-TR (Diagnostic and Statistical Manual-IV-Text Revision)

多軸評定

I 軸: 臨床疾患, 臨床的関与の対象となること
のある他の状態

II 軸: パーソナリティー障害, 精神遅滞

例) I 軸: アルコール依存症

II 軸: 境界性パーソナリティー障害

診断をめぐって III-2

例) I 軸: 摂食障害

II 軸: 境界性パーソナリティー障害

I 軸となることが多い合併する病気

うつ病, 双極性感情障害(躁うつ病), PTSD...



診断をめぐって IV

- 保険病名



境界性パーソナリティー障害

対人関係、自己像、感情の不安定および著しい衝動性の広範な様式で、成人期早期までに始まり種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ(またはそれ以上)によって示される。

- 1) 現実、または想像の中で見捨てられることを避けようとするなりふりかまわない努力
注: 最早で取り上げられる自傷行為または自傷行為は含めないこと
- 2) 感情化とこき下ろしとの両極端を繰り返すことにより特徴づけられる、不安定で激しい対人関係様式
- 3) 同一性障害: 著明で持続的な不安定な自己像または自己感
- 4) 自己を傷つける可能性のある衝動性で、少なくとも2つの領域にわたるもの(例: 自殺、性行為、飲酒乱用、暴力的衝動、盗窃衝動)
注: 最早で取り上げられる自傷行為または自傷行為は含めないこと
- 5) 自殺の行跡、そぶり、関し、または自傷行為の繰り返し
- 6) 顕著な気分反応性による感情不安定性(例: 通常は2~3時間持続し、2~3日以上持続することはまれなエピソード的に起こる強い不快気分、いらだたしさ、または不安)
- 7) 衝動的な決定感
- 8) 不適切で激しい怒り、または怒りの制御困難(例: しばしばかんしゃくを起こす、いつも怒っている、取っ組み合いの喧嘩を繰り返す)
- 9) 慢性のストレス関連性の身体症状または重篤な身体症状

境界性パーソナリティー障害

対人関係、自己像、感情の不安定および著しい衝動性の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。
以下のうち5つ(またはそれ以上)によって示される。

気分のむら

- 1) 現実、または想像の中で見捨てられることを避けようとするなりふりかまわない努力
- 6) 顕著な気分反応性による感情不安定性(例: 通常は2~3時間持続し、2~3日以上持続することはまれなエピソード的に起こる強い不快気分、いらだたしさ、または不安)
- 8) 不適切で激しい怒り、または怒りの制御困難(例: しばしばかんしゃくを起こす、いつも怒っている、取っ組み合いの喧嘩を繰り返す)

不安定な関係

- 2)理想化とこき下ろしとの両極端を揺れ動くこと
によって特徴づけられる, 不安定で激しい
対人関係様式
- 3)同一性障害: 著名で持続的な不安定な自己
像または自己感
- 7)慢性的な空虚感
- 9)一過性のストレス関連性の妄想様観念また
は遺囐な解離性症状

コントロール不可能な行動

- 4)自己を傷つける可能性のある衝動性で、少
なくとも2つの領域にわたるもの(例:浪費, 性
行為, 物質乱用, 無謀な運転, 無茶食い)注:
基準5で取り上げられる自殺行為または自傷
行為は含めないこと
- 5)自殺の行動, そぶり, 脅し, または自傷行為
の繰り返し

依存症の特徴

- 問題が何度も起こっているがやめ
られない。
- 否認(問題を認めない)
- 進行性
- 気分の波を伴う
- 関係性の病
- 回復できる



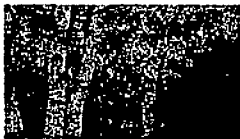
否認

- うそをつく
- いいわけをつくる
- 全く認めない
- 過小評価する
- 人をさける
- 自分だけは違うと思う
- 同じ行動を繰り返す



家族の否認

- 問題を認めない
- 病気を認めない
- 依存対象のものの意外の問題を認めない



アルコール依存症

- 耐性: 以前と同じ量では酔えない→量の増大
- 離脱症状: 禁断症状
- コントロール困難
- やめようとして何度も失敗する
- 生活の多くが酒に関係
- 酒のせいで仕事、対人関係等ができない
- よくないとわかっているにもかかわらずやめられない

依存の対象になるもの

- アルコール
- 薬物:覚せい剤, 大麻, コカイン, 精神薬, 頭痛薬, 下剤....
- 対人関係:暴力, 虐待
- 買い物
- ギャンブル
- 過食, 拒食...
-



自傷行為としての性行為

- ◆寂しさ, 空虚感, 対人関係の隙間を埋めるため。
- ◆嗜癖, 依存症の特徴をもつ
- ◆当事者はそれが自傷行為であることに気がついていないことがある

自傷的性行為の例

- ◆危険だと知っていてコンドームを使用しない
- ◆淋しさ, 孤独を紛らわす話し相手の代償として
- ◆STD感染・中絶の繰り返し
- ◆不特定多数を対象とする
- ◆性行為に至るまでの時間が極端に短い
- ◆セックスパートナーからの暴力行為が伴う
- ◆性被害後のPTSD、再上演
- ◆性行為以外に存在価値を見出せない。
- ◆他の嗜癖が随伴している

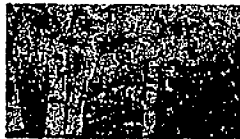
否認

- うそをつく
- いいわけをつくる
- 全く認めない
- 過小評価する
- 人をさける
- 自分だけは違うと思う
- 同じ行動を繰り返す



家族の否認

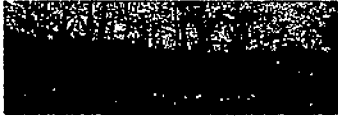
- 問題を認めない
- 病気を認めない
- 依存対象のものの意外の問題を認めない



アルコール依存症

- 耐性: 以前と同じ量では酔えない→量の増大
- 離脱症状: 禁断症状
- コントロール困難
- やめようとして何度も失敗する
- 生活の多くが酒に関係
- 酒のせいで仕事、対人関係等ができない
- よくないとわかっていてもやめられない

AC(アダルトチルドレン)



- Adult Children of Alcoholics
アルコール依存症家族で育った人
- Adult Children of Dysfunctional Family
機能不全家族で育った人

世代伝播

「私は親のようにならない」
と思っても同じようになって
しまう。

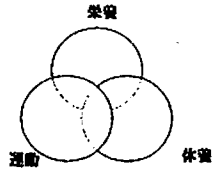
家族の役割の取り方やコ
ミュニケーションのパターン、
配偶者(パートナー)選択
が次の世代に学習され、繰
り返されていくことで家族の
問題もつたわっていくこと



治療の目標

- 診断基準に当てはまる項目の数を5つ以下にする
- 気分のむら、不安定な関係、コントロール不可能な行動
- 自分を傷つけない、病気に気がつく...
- 自立する
- 楽になる
- ...

健康の3要素

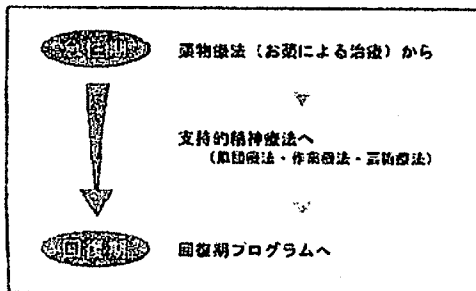


治療についての一般的なこと

- 自己決定 >(医療)保護 > 社会防衛
- 外来か入院か?
- 薬物療法 急性期 : その時起きている精神症状の軽減
再発を防ぐための予防的治療: 継続療法, 維持療法
- 精神療法: カウンセリング, 集団療法, 認知行動療法, 家族療法, 芸術療法等
- 教育 : 心理教育, 家族教育, 等
- リハビリテーション



精神疾患の治療について



薬物療法

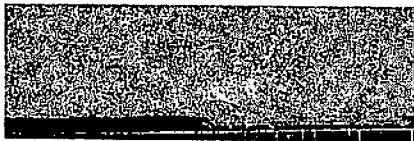
- 合併している病気の治療
- 根本治療にはならない
- 対処療法
- 上手に利用する
- オーダーメイド
- 副作用に注意

動機付けの5つの段階

- 1) 前考慮期: 回復のための行動を起こす気持ちが全くない段階
- 2) 考慮期: 問題に対する自覚の芽生え, このままではいけない
- 3) 準備期: 抜け出す良い方法を模索する
- 4) 行動期: 相談機関や治療者を訪れる
- 5) 維持期: 再発の予防を試みる. 迷いや誘惑と闘っている

臨床判断のよりどころ

- 自己決定 > 保護 > 社会防衛



長谷川病院の理念と基本方針

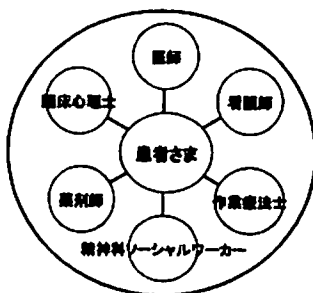
1. 理念

患者様・ご家族様との信頼関係を築き、人権に配慮した安全な医療を提供します。

2. 基本方針

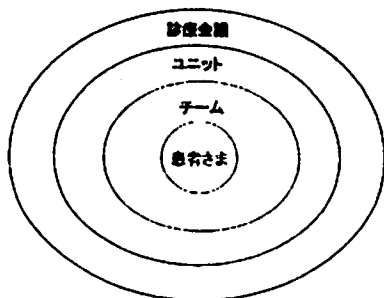
- ① 治療・教育・予防を3本柱として「力動的チーム医療」を実現します。
- ② 急性期から回復期までの総合的な治療とリハビリテーションを提供します。
- ③ 地域の医療・保健・福祉と連携して、一貫したサービスに努めます。

力動的チーム医療



医師、看護師、精神科ソーシャルワーカー、作業療法士、薬剤師、臨床心理士などがチームを組んで治療に当たっております。

治療構造



DBT

• Dialectical Behavior Therapy
= 弁証法的行動療法
自傷傾向の強いBPD患者のための治療法

- 心理教育(特別セミナー)
- 個人療法
- 認知療法

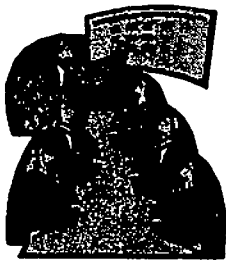
アサーションとは



お互いを大切にしながら
素直に
率直に
自己表現をする

コミュニケーションの方法

対人関係のパターン



攻撃的方法

- 強がり / 尊大
- 無頓着
- 相手に指示 / 操作的
- 他者否定的
- 自分本位 / 優越を誇る
- 支配的 / 一方的に主張する
- 責任転嫁

非主張的方法

- 引っ込み思案 / 消極的
- 卑屈 / 自己否定的
- 依存的 / 他人本位 / 相手まかせ
- 承認を期待
- 服従的
- 黙る
- 弁解がましい

アサーティブ

自分のことをまず考えるが
他者も配慮して
主張する態度

アサーション権



- ・ 参考文献:
アサーショントレーニング-さわやかに自己表現>のために
- ・ 平木典子著・日本・精神技術研究所・金子書房

怒り

- ・感情は止められない
- ・感情に点数はつかない
- ・感情を表現してかまわない
- ・自分の感情を大切にする
- ・感情と衝動的行動を区別する



怒りについて話し合う

- ・ 怒ってはいけない?
- ・ 怒りは押さえ込むべき?
- ・ 爆発すれば、怒りはおさまる?
- ・ 怒りで対人関係が破壊する?
- ・ 怒りと暴力の違い

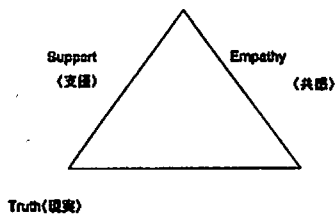


怒りへの対処

- 怒りを認める
- 誰の怒りなのかを考える
- リラックスする
- 時間・距離をとる
- 助けを求める
- 怒りを壁につなぐ



S E T



- Support(支援): 私=BPDを抱えた人の周囲、援助者、治療者の気持ちを表現する
「私は、あなたを助けたい」
- Empathy(共感): あなた=BPDを抱えた人、当事者、患者に焦点を「あてる」
「あなたは、さぞかしつらかったでしょう」
- Truth(現実): 客観的な状況、その時点で解決しようとしてできない問題にどのように向き合っているのか、中立的表現
「〇〇が起きました」「・・・という結果でした」



過敏になる表現＝やさしい虐待

- 常に条件付きの愛
- 細かく、しかも変化するルール
- 自己犠牲的愛とひきかえの期待
- 不安の先取りによる行動の限定
- 強迫的、完璧主義
- 相対評価主義、他との比較、点数化
- 感情を認めない、あるいは無視
- きまぐれで、根拠のないごほうび
- 親が対人関係修復のために必要とするわいろ
- 言葉の暴力
- 秘密の共有者を強要する
- 社会から家庭を孤立させる

U P

BPDを抱えた人の周囲、援助者、治療者と
BPDを抱えた人、当事者、患者、両者の目標

- Understanding〈理解〉
- Perseverance〈忍耐、根気強さ〉

SETを身につけたらUPでうまくいく

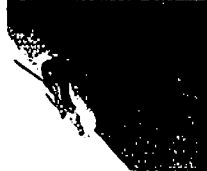


主語は誰？

・“かわりにくい”たいへんだ
“こまった”と思っているのは
誰？

・何が受け入れられない？

・何が許せない？



意識改革の必要性

コンプライアンス compliance

から

アドヒアランス

adherence へ



患者・治療者関係

パターナリズム

治療者は父が子を守るように患者を保護する

インフォームドコンセント

治療者は患者の自己決定を支援する立場＝
共同作業を進める伴走者＝
援助者



インフォームドコンセントの必要性

- 歴史的背景
急性感染症のコントロール=社会防衛の時代



現代医療のキーワード 高齢化・生活習慣病・臓器移植・AIDS・QOL・高額医療・D.V・・・

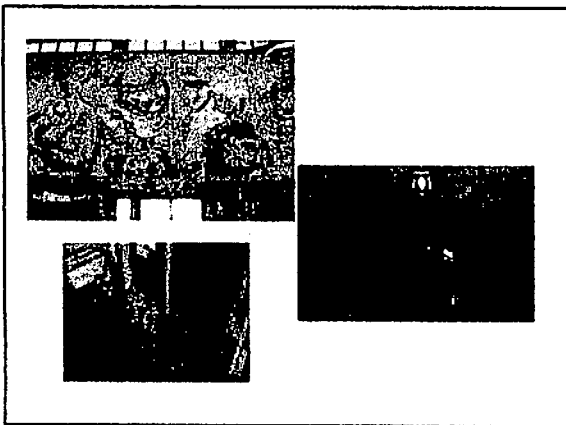
ストレスマネジメント

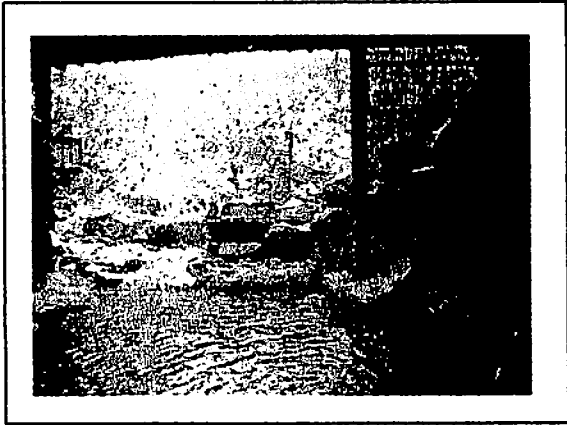
- 援助者自身の安全を確保する。
- 援助者自身の自己開示の範囲を決めておく。
- 援助者は自らの限界を把握しておく(援助者にとって不可能なことはしない)(出来ないものはできないと告げる)
- 怒りをよける、受けて立たない。
- スーパーバイザ(スーパーバイズのシステム)を持つ。
- 自らのトラウマが想起されたときの対応を考えておく。(諦める、休む、交代する、治療、カウンセリングを受ける、)
- 事柄から全く離れた時間、場所、趣味を持つ。















**BPD(境界性パーソナリティー障害)
を生きる七つの物語**

ジェロルド・J・クライスマン&ハル・ストラウス
長谷川病院 院長 吉永陽子 監訳

星和書店